

事務事業評価シート 令和 1 年度事後評価・決算

令和 3 年 2 月 22 日時点

事務事業名		コード	39740 青少年健全育成活動費	予算科目	会計	款	項	目	所管課	生涯学習課	担当班	社会教育班
			(2) (青少年相談員) (通学合宿)	一般	一般	10	4	1				
施策体系	基本施策	14	青少年の健全育成	根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等							
	施策の展開	28	青少年の健全育成の推進	戦略事業	138 青少年相談員連絡協議会活動の推進							
	施策の展開			戦略事業	139 通学合宿の推進							
												事業種別
												☒ 主な事業 ☐ 国土強靱化地域計画 ☒ 新市建設計画 ☐ 定住自立圏構想 ☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	① 青少年相談員連絡協議会：青少年相談員（千葉県知事委嘱）による青少年健全育成活動。市は連絡協議会への補助金交付を行う。 ② 通学合宿：異学年同士（小学校5～6年生）で集団生活を実施して健全育成を図る	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
家庭と地域・学校等各団体間の協力体制並びに組織体制づくりによる密接な連携のもと、体験学習や実践活動を通じて地域との関わりや世代間交流を促進し、社会性や豊かな人間性を持つ青少年を地域全体で育成していく。	青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜はいかいなどに加え、パソコンや携帯電話によるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化、低年齢化の傾向にある。	学校、家庭、地域社会、関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(1年度の決算)	単位：千円
1. 負担金及び交付金	3,194 補助金(青少年相談員連協)、海匠相談員負担金
2. 国庫支出金	
3. 都道府県支出金	
4. 地方債	
5. その他	
② 特定財源の内訳(1年度の決算)	単位：千円
1. 国庫支出金	
2. 都道府県支出金	360 青少年相談員活動費補助金
3. 地方債	
4. その他	

事業費	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(予算)
1. 負担金及び交付金	千円	2,708	1,212	1,212	3,194	777
2. 国庫支出金	千円					
3. 都道府県支出金	千円					
4. 地方債	千円					
5. その他	千円					
事業費計(A)	千円	2,708	1,212	1,212	3,194	777
1. 国庫支出金	千円					
2. 都道府県支出金	千円	570	570	570	360	360
3. 地方債	千円					
4. その他	千円					
5. 一般財源	千円	2,138	642	642	2,834	417

前年度増減理由	相談員の交代に伴うユニフォーム購入。定数削減による補助額減。
---------	--------------------------------

従事職員数 常時 1 人 最大 5 人 × 13 日 = 延べ 65 人

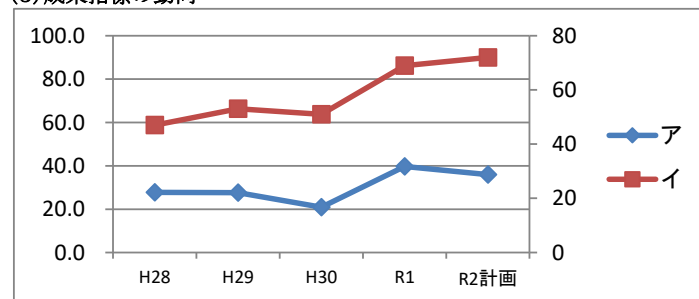
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

① 主な活動	③ 活動指標名	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(計画)
1年度実績(1年度に行った主な活動) 《青少年相談員連絡協議会》 通学合宿、子どもパークゴルフ大会、親子地曳網体験、海匠地区少年の日・地域のつどい大会等の実施、キャンプ場宿泊体験。	ア 《相談員連絡協議会》行事の回数	回	6	5	6	6	7
	イ 《通学合宿》事業実施地域	地域	2	2	2	3	3
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(計画)
対象 《相談員連絡協議会》6歳から18歳までの青少年(青少年相談員の対象者)	ア 《相談員連絡協議会》相談員の各事業への参加率	%	27.8	27.6	20.9	39.7	36.0
意図 《相談員連絡協議会》地域での育成活動の積極的な推進を図り、青少年の健全育成に資する。							
対象 《通学合宿》小学校5年生から6年生までの児童	イ 《通学合宿》参加人数	人	47	53	51	69	72
意図 《通学合宿》異学年同士で集団生活を行うことにより、自主性、協調性、社会性を養い、青少年の健全育成に資する。							

(4) 事務事業優先度評価の結果

①成果優先度評価結果			②コスト削減優先度評価結果					
		成果向上余地			コスト比率			
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3	
施策貢献度	大きい		②		評価結果	①		
	普通					②		
	小さい					③		(9)
				④⑤				
				⑥				
				⑦⑧				
				⑨				

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	完了	順調	概ね順調	停滞	実施困難
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	数値減＝成果向上	数値増＝成果向上
【コメント】(低下の場合、その理由)					
③ 今年度取組事項(2年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容	今後の方向性	拡大	縮小
	R2.10～3月	子どもパークゴルフ大会、海匠地区少年の日・地域のつどい大会等の実施。駅伝大会、しおさいマラソン大会等への協力。		現状維持	廃止・休止
				見直し	その他()